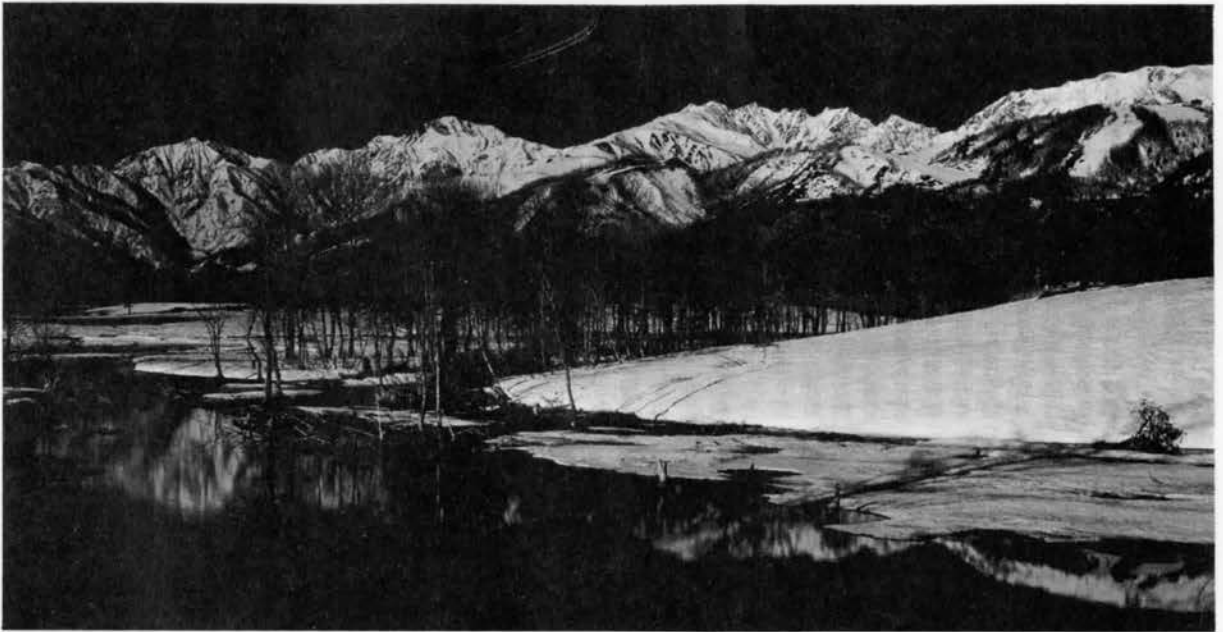


# 山と博物館

第30巻 第3号

1985年3月25日

大町山岳博物館



解け初めた山麓の雪 古幡 和敬 撮影

## 動物雑感

生来の病のごとき動物好きが昂じて、大小取り混ぜ十指に余る犬どもが、我が家にいた事もあった。別に収集の積りで置いた訳では無かったが、どうも、情に脆いというのか一度飼いつけて了うと、手離すのが可哀想になって、ついそのまま何となく居居ってしまふケースが多いようで、我ながら閉口することもママある。

ご存知の様に犬の良し悪しの見方は、その犬種のスタンダード・ブックに明示されており、その基準に則って判定される。従って、ブリーダーを志す為には、完全な姿体と潔性を先ず頭の中にたたき込んで置くことが必要である。つまり理想像を完璧なまでに自分のものとして持つことが大切。そのうえで血統的な特徴を勘案しながら仔犬を作出して行くことになるのであるが、よくしたもので、まあ一生取り組んでこれぞという逸物は一頭もあれば大成功と云える位で、骨折損の草臥儲けを地で行くことになり、その結果冒頭のとうり居候の如き犬がゴロ／＼ということになる。

こうした繁殖に必要な血統登録管理が最も良く整っているのは、競走馬の分野であると云われており、個体から溯って二十代祖・三十代祖の祖先各一頭一頭についての記録が保存され、現在のブリーディングに役立っている。極めて科学的合理的な運用が繁殖に用いられている典型である。それは、馬学という学問にまで昇華されており、全く無駄の無い、目的(この場合は走るという目的)を充たす為の機能のみで成り立っている美し機能美の極致とさえ云われている。確かにサラブレッドの躍動美・立姿の優雅さは、馬に関心の無い人々の眼をも魅きつけて止まないし、また素晴らしいと思わせる何かがある。よくぞここまで創りあげたものだ、とほと／＼感心させられるのである。

而し、反面ここまでに至る過程の中では、非情な迄の淘汰と選択が、如何に多くくり返されて来たかということを感じて居る必要がある。この完成された美しさの向う側に、唯走るのに適さないという理由だけで消えて行った数知れぬ馬たちの悲哀を感じずにはいられない。若しも、この完全な美を創り出したことに自負心を抱くだけとしたならば、是は明らかに人間の思い上がりであり、ひいては自ら墓穴を掘る類であると思う。

近代の生物に関する学問は、とかく動物を一つの「実験材料」として見がちで、より精密に、より部分的に調べようとする傾向が強いと言われる。そんなことよりもむしろ、動物の中に入って暮らすことの中から自然界の真実を発見しようとする態度、考え方が、いまま一番必要なのではあるまいか。

かくして、我が家の居候犬たちも、チャンプになり損った奴が、大いに巾をきかせるに到っている現状である。そしてそれらもまた、結構楽しいものであり、私も犬もご満悦の毎日を通して貰っている。

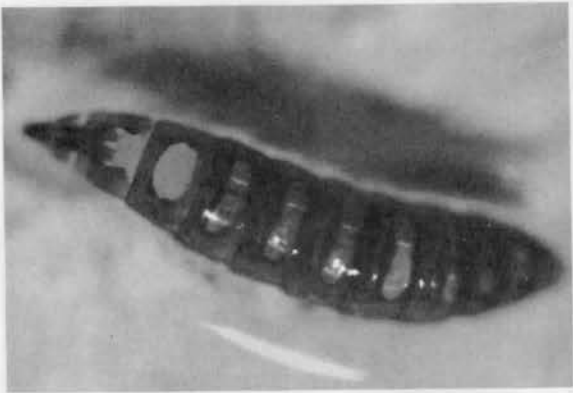
(大町市教育委員長 清水利和)



ある。

これらのアブの成長過程を順を追って、幼虫から成長へと貧弱な資料をもとにたどってみると、成虫の吸血行動から忌み嫌われているこの昆虫も意外な側面のあることに気付く。それは、森林保全の為の害虫のコントロールに役買っているに過ぎないことである。つまり森林を舞台にくり返されている食物連鎖の一端を荷負っている種があるからで、とくに、人跡未踏の原生林などに群棲している山地性アブ(アオコアブ・イヨシロオビアブ)の幼虫の習性は、湿润な林床を拠点とし、そこに共棲している所の他の昆虫の幼虫を捕食していることなどがそうした論拠の一端である。またアブの成虫の行動範囲は、他の昆虫のそれと比較するとずい分と限られていて、一、二キロの半径が前提となっている。そのため、アブの大発生が報告されている地域でも、場所によってまわりにうるさくなくついていたアブが突然バタリと寄りつかなくするという現象を経験することがある。俗にいう「アブ道」からそれたのである。つまりこれは、アブ占有地域に人畜が迷いこんだ結果の副次的な現象で、領土侵犯に対する当然の報復攻撃なのであるが、占有域から脱すると、その襲撃が全くなくなるのである。アブはかのように執拗に吸血源を求めて移動してまで攻撃することはない。ウルリが大発生しているということはそれなりに自然環境が保全されているとみるのが正しいようなのである。

一九六八年、群馬県の嬬恋村狩宿の酪農家の依頼でアブ幼虫の生息調査をしたことがある。日中はアブによる襲撃がひどく放牧が出来ない状況であるという、そこで早速カヤトラップ(カヤ一帳を野外にはり一面を数十センチの高さで上げてドライアイスによって炭酸ガスを発生させそれに誘引される成虫(♀)を捕獲するというもの)を用いたところ二、三時間で一升樽一杯のアオコアブが捕獲されたが、牧舎のまわりの幼虫の生息環境に好適と



イヨシロオビアブの幼虫(池田町滝沢)

見られる場所からは一頭の幼虫も得られなかった。まわりは浅間山の裾野に拡がっている原生林のほぼ中央に位置しており周囲はカマツク林であったこと、戦後になって開拓された土地であったこと、戦後の状況からそれまでの自然環境にそぐわない状況を呈しており、大発生をしているということはまわりの湿润な林床にその原因があったようだ。また同じ頃、県の企業局の事業として開設された小泉郡の長門牧場での幼虫の生息調査をしたとき、やはり、成虫捕獲にカヤトラップが用いられたが、その頃、珍品とされたヒゲナガサシアブの♀が何頭も捕獲されたことがあった。最近の松本平一円の農村地帯でも筆者の子供の頃より、アブに出逢う数はごく少なくなっていることを感じるが、昔のような農耕に家畜が参与しなくなつて吸血源が、農家から姿を消したことは明らかに原因があるのではなく、堰がコンクリートで固められ、用水路にU字溝が用いられた、田の畦にビニールやえん石が埋められたことによる幼

虫の生息環境の崩壊が、湿润な土壌を好むアブの幼虫の生育を阻んだものと推測されるのである。アブは吸血源があるから、それを目標に群つて大発生をするというような能動的なかわり方は幼虫の生態からして出来ないから人為的な自然抑制によって十分に制圧されてしまうものである。従ってアブは人間との生存競争に負けて減りつつある昆虫でもある。それはハエ、カのようにどこでも適応し、繁殖力が旺盛で一シーズンに何代も世代交替がなされるものと異なり一腹から産下された卵は二シーズンを経ないと羽化出来ないという成長過程のサイクルによることも見逃せないところである。

一九六五年からこの昆虫にとり湧かれて以来二十年、ずっと観察を続けている軽井沢では当時の状況と現在では、雲泥の差で、その幼虫の生息域は、自然開発の拡がりに呼応して次第に奥へと移動し、当時は人家とさほど離れないところ、幼虫の生息域が見られたが、現在は相当奥地に入らないと見当らなくなつて来ており人家への飛来も少なくなつたようである。しかし、すべてのアブがこの轍を踏んでいるというわけではなく、適応しにくい環境の中に辛じて生息域を求めて発生をくり返している種もある(ニッポンシロフアブ・ギシロフアブ・キノシタシロフアブ・ウシアブ)。つまり、幼虫の生息環境により成虫の発生度は支配されるのである。アブ科のアブは幼虫の生育環境を様々な地域にもち、種により固有の条件により選ばれる比較的清潔な湧水域の湿润な土壌を好むマツムラヒメアブ・タイワンヒメアブ・アカウシアブ・落葉樹林の比較的湿润な林床を好む、アオコアブ、キスチアブ・ヤマトアブ・ジャーシイアブ、同じような落葉樹林の中での伐切や倒木の朽木の湿润な木質の部分や藓苔類の密生する湿润な林床を好むイヨシロオビアブ・キンイロアブ・ゴマフアブなどがあり、森林内に流れ

る溪流の河床や堆積土の中を好むムカシアブ。また、平坦地によく見られるギシロフアブ、ニッポンシロフアブなどは溜池のような有機物により汚染された池沼の岸辺をよりどころとしている。とくにギシロフアブの幼虫は採取中の刺激に敏感に反応して水面に浮上し駆幹を蛇行させながら遊泳することが観察されている。また同じ環境から発見されるキノシタシロフアブは河川の砂止めのえん堤附近の僅かな土壌にしがみつくように生息している。中房温泉の排湯が集まる比較的湿度の高いところの藓苔類の中に見られたりほとんど場所を選ばない種もある。豊かな森林を縫って流れる溪流の岸はメクラアブ・クロメクラアブ・ヤマグチメクラアブなどがおり、一般に森林をめぐるの生息環境がアブ幼虫の生息に向いているもののようにいずれも湿润な環境が好まれるのである。

しかし、同一種が僅かな場所の違いによって、羽化し発生する時期を異にするのもこの昆虫の特徴のようで、同じような環境に生育しながらも、場所によって発生する時期にズレが見られ、メクラアブの場合がそれで、南安三郷村小倉地籍の北沢と北安池田町の大家牧場の観察を比較した場合二ヶ月許りの発生期ズレがみられるこのズレはアブの閉鎖的なエコロジのあらわれである。他には小谷村梅池と池田町法道の観察に差のみられるタイワンヒメアブ。軽井沢町(沓掛・鶴溜・塩沢)と池田町(法道・広津・七五三掛)・小谷村梅池親ノ沢に羽化期のズレが観察され、それぞれの地域に生息するアブは、その生態的特徴及び行動形式を、その地域特有の遺伝形質として伝承しているものようである。

また他種間で類似した環境に生息条件を見いだす種は競合する場合と共棲している場合があり前者はアオコアブとイヨシロオビアブの関係で互いにところをかえて棲み分けをしているらしいのである。したがって両者が同じ地域で共に大発生をみた例は未だ聞かない。

(豊科中学校教諭、衛生動物学会員)

野草シリーズ

裏日本系植物について

保 尊 裕 之

大町市と白馬村との境には佐野坂と呼ばれる峠がありここを分水地として北に姫川が流れ下って糸魚川市で日本海に注いでいる。この姫川沿いに裏日本的な要素をもった植物が南下し、大町は大体その南限に当たっている。野草シリーズの第四回として今回は大町周辺で目につきやすい裏日本系の植物を紹介してみたいと思う。

・ハイイヌガヤ (イヌガヤ科) イヌガヤに対するもの。背丈が低いので這い犬樞の名がある。次のハイイヌツゲと共に林床に多い。ハイイヌツゲ (モチノキ科) よく庭園樹に用いられるイヌツゲ (植木職は単にツゲという) に対し、立上がらず地面に接する。



ヒメアオキの実 57.5.2

・ミヤマカワラハシノキ (カバノキ科) 表日本のカワラハシノキに対するもので、小谷温泉附近に多い。葉先は丸く少しへこむ。コシノカンアオイ (アオイ科) カンアオイに対しこの種は小谷などの多雪地のアナハの林床に多い。葉が大きく斑紋も美しい。ケイタドリ (タデ科) 池田町辺から北にみられ、普通のイタドリと混生している。葉裏に細毛を密生しているため白くみえる。キバナイカリソウ (メギ科) 大町地域には紅紫の花をつける普通のイカリソウや白花のシロバナイカリソウと共に咲いている。エゾアジサイ (ユキノシタ科) 大町の霊松寺山のものには色の変化が多い。佐野坂附近のものには特に色彩が多い。ヤマアジサイに対し、この辺より北部の谷筋に多い。マルバマンサク (マンサク科) マンサクに対して葉先がや、丸い。北部に多い。オクチヨウジザクラ (バラ科) チョウジザクラの裏日本系のもの。灌木状で高木と変わらない。小谷村には群生地があり有名。クロズル (ニシキギ科) 裏日本の多雪地特有のもの。この辺では小谷温泉附近に多くみられる。翼のある果実がよく目を引く。ヤマモミジ (カエデ科) オオモミジに対するもので、葉の切れこみが深く、枝は細く緑色。白馬村、小谷村など北部に多い。ケハギ (マメ科) ヤマハギに対するもので茎は木化せず草状で細毛を密生する。ヤマハギやマルバハギは大町市周辺に多いが、こちらは小谷村地籍に多くみられる。株状に叢生し、丈は低い。冬に地上部が枯れる。エソユスリハ (トウダイグサ科) 白馬村や小谷村などの多雪地に多い。灌木状に地を



タニウツギ 56.7.12

這い、ユズリハのように上に立たない。ヤマグルマやシヤクナゲと間違えう人が多い。オオバボダイジュ (シナノキ科) シナノキに対するものでよく似ているが葉が大きく舌状の苞が花序の根元につく特徴をもつ。ユキツバキ (ツバキ科) 永らくふつうのツバキ (ヤブツバキ) と混同されていた。裏日本などの多雪地に生える、この辺では小谷村に多い。花卉が平開すること、花糸が黄色で、一本ずつ離れていること。灌木状であるなどの特徴をもつ。オオタチツボスミレ (スミレ科) 大町ではふつうのタチツボスミレと両方がみられる。距が大きく白い部分がよく目立つ。オオハナウド (セリ科) ハナウドに似るが全体に毛があり、葉も大型である。佐野坂周辺に多くみられる。ヒメアオキ (ミズキ科) 南方系のアオキに対するもので、大町以北の低山地に多くみられる。若枝、葉柄に毛のあるのが特徴。

・オオコメツツジ (ツツジ科) 深山に多いコメツツジやチヨウジコメツツジと異り、花も葉も大きく丈も高い。八方尾根に多い。クロバナヒキオコシ (シソ科) 大町周辺には普通のヒキオコシがみられるが佐野坂を越え白馬村に入るとクロバナが出てくる。ケナシヤブデマリ (スイカズラ科) ヤブデマリに比べ毛が少なくない。佐野坂周辺から北部のものにはみなこれである。穂花は美しい。ヒロハゴマキ (スイカズラ科) ゴマキに比べて葉が大形である。佐野坂や姫川源流、神城附近に多くみられ、紅い実が美しい。タニウツギ (スイカズラ科) ミヤマウツギやニシキウツギに対するもので、大町以北の谷筋に多く紅色の美花を沢山つける。チシマザサ (イネ科) この辺ではこの筍をヘイジク、ネマガリダケといひ山菜とする。オオバミソホオズキ (ゴマノハグサ科) 大町辺では浅山から深山、高山にかけて分布している。ミソホオズキも低地に多い。オニシオガマ (ゴマノハグサ科) シオガマギクに対するものだが、この辺では梅池自然園から天狗原にかけての地域に多い。オオシラヒゲソウ (ユキノシタ科) シラヒゲソウに対するもの。大町ダムの奥の「中ノ沢」流域には群生地がありみごとだ。以上のほかミヤマシシガシラ、ボタンネコノメ、キヤラボク、チャボガヤ、コシジシモツケソウ、ヒヨクソウ、ノウゴウイチゴ、アカミノイヌツゲ、ミヤマウメドモキ、ホナガクマヤナギ、ナガハシスミレ、スミレサイシン、トクワカソウ、オオバツツジ等がある。(大町山岳博物館嘱託)

山と博物館 第30巻 第3号  
 発行所 長野県大町市 TEL 0261-2211  
 印刷所 長野県大町市 印刷部  
 定 価 年額一、二〇〇円(送料共) (切手不可)  
 郵便振替口座番号 長野四一三二九九三